

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立泉が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり、その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考え方から、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和7年4月17日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年（国語、算数、理科、児童質問調査）

中学校 第3学年（国語、数学、理科、生徒質問調査）

#### 4 本校の参加状況

① 国語	120人
② 算数	120人
③ 理科	120人

#### 5 留意事項

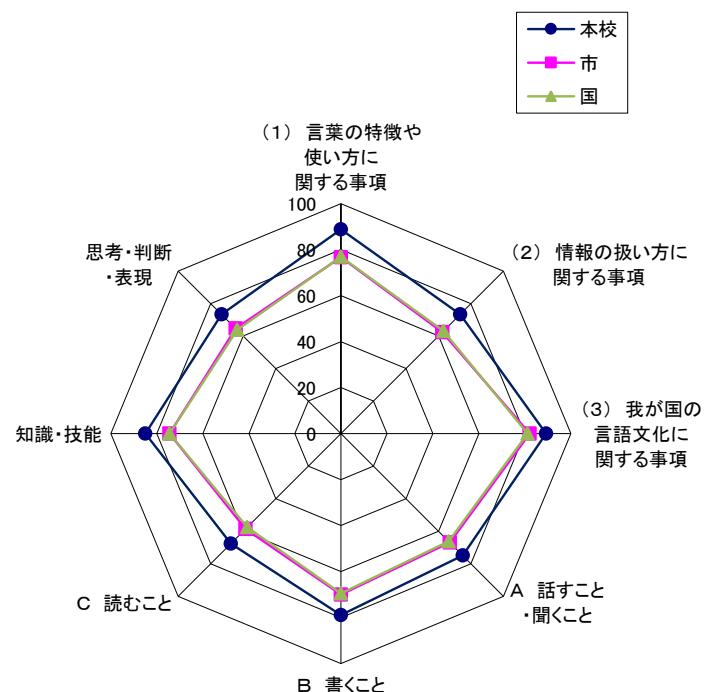
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立泉が丘小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	88.8	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	73.3	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	89.2	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	75.0	67.0	66.3
	B 書くこと	78.9	70.0	69.5
	C 読むこと	67.7	58.6	57.5
観点	知識・技能	85.0	74.5	74.5
	思考・判断・表現	73.3	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

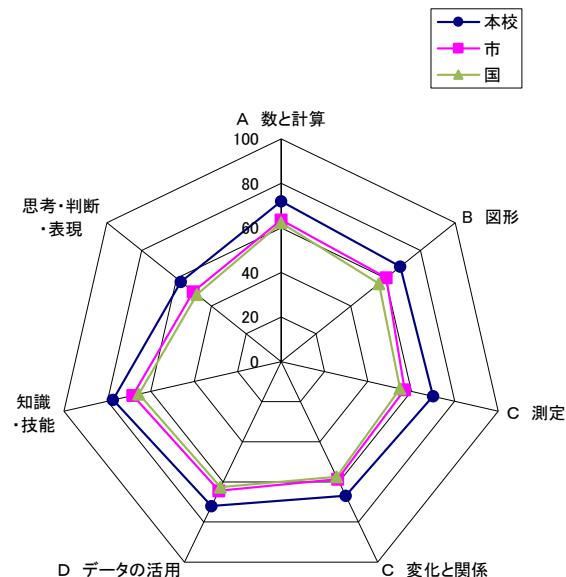
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は88.8%で、全国平均と比べて11.9ポイント高い。 ○文脈を読み取って、適切な漢字を正確に書く問題の正答率は高い。	・朝の学習や家庭学習の時間も活用し、学年配当漢字だけでなく、既習漢字を継続的に練習する機会を設け、文章の中で学習した漢字を使うことができるよう指導を継続していく。 ・物語文や説明文の学習では、述語に対する主語や、「いつ、どこで、だれが、何をしたのか」を確認し、主語と述語の関係を正しく捉えたり、接続詞や指示語に着目し、文章の内容を構造的に理解したりする力を系統的に育んでいく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は73.3%で、全国平均と比べて10.2ポイント高い。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、複数の情報を整理する方法についてよく理解していると考えられる。	・各教科・領域等で、複数の情報を比べたり関連付けたりすることで得られる気付きから自分の考えをもち、文章化する活動を計画的に設定した指導を継続していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は89.2%で、全国平均と比べて8.0ポイント高い。 ○時間経過による言葉の変化や世代による言葉の違いによく気付くことができている。	・「あらすじ」や「要約」と「感想」を区別して物語の感想を書くことができるよう、自分がどう考えたか、どんな影響を受けたかという視点を示して指導する。 ・教科書に掲載されている物語文と同じ作者の他の本やおすすめされている本を意図的に紹介するなど、当該学年の学習に合った本を読む指導を続けることで、日本の言語文化にふれる機会を設ける。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は75.0%で、全国平均と比べて8.7ポイント高い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えたり、話し手の考え方と比較したりしながら、自分の考え方をまとめることができた。 ●集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討することに課題が見られる。	・話合い活動においては、児童が話合いの目的を理解し、相手意識をもって参加できるようにする。話の流れを捉えたり、自分の考えとの共通点や相違点を見付けながら聞いたりすることで、自分の考えを広げたり深めたりできるよう指導を継続していく。 ・話合い活動前の準備時間を確保することで、自分が話したいことの中心や組立てを考え、自分の考えを整理して話すことができるよう指導の充実を図る。
B 書くこと	平均正答率は78.9%で、全国平均と比べて9.4ポイント高い。 ○図表などを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができた。	・文章を書く際には学年に応じて、読み手に思いが伝わる文章の書き方を引き継ぎ指導していく。 ・条件に合わせて自分の考えを書く力を高めるため、各教科の振り返りの場面では考える視点を示し、それに沿った文章を書く力を系統的に育成する。 ・様々な学習活動において、本校の「書くチャレ」の取組を意識しながら、文章を書く機会を計画的に設定し、自分の思いや考えを言葉や文章で表現する力を育成していく。
C 読むこと	平均正答率は67.7%で、全国平均と比べて10.2ポイント高い。 ○目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けることができた。 ●事実と感想との関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて、要旨を把握することに課題が見られる。	・文章を読む際、重要な言葉や表現に線を引いたり、時系列を確かめたりしながら読む活動を行うことで、目的に応じた必要な情報を見付ける力を系統的に育んでいく。 ・自分の感想や考えを理由とともに話したり書いたりする活動を系統的に設定し、継続した指導を行うことで、どの描写からどのような心情が想像できるのか、叙述を基に想像する力を育んでいく。

## 宇都宮市立泉が丘小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

### ★本年度の国、市と本校の状況

#### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	72.0	63.6	62.3
	B 図形	68.5	60.4	56.2
	C 測定	70.0	56.9	54.8
	C 変化と関係	66.9	58.6	57.5
	D データの活用	72.0	64.4	62.6
観点	知識・技能	77.4	68.3	65.5
	思考・判断・表現	57.5	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



### ★指導の工夫と改善

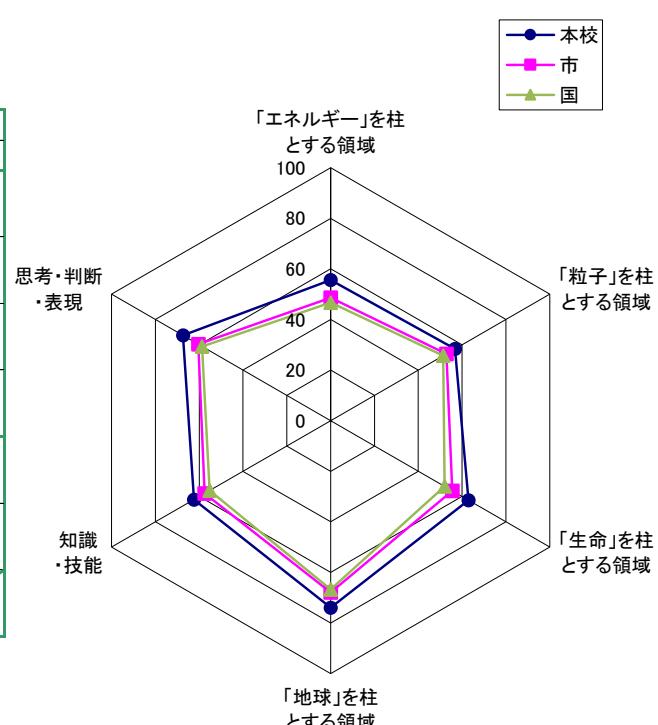
分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
		今後の指導の重点	
A 数と計算	平均正答率は72.0%で、全国平均と比べて9.7ポイント高い。 ○整数や分数の計算問題の正答率は高い。 ●問題場面を的確に捉えて数や言葉を使って、式の意味を説明することに課題が見られる。	・問題場面を図や数直線で表しながら数量の関係を正しく捉える力や四則計算の性質を理解し、場面に合った式に表す力を系統的に育んでいく。 ・ペア活動やグループ活動を通して、計算の仕方とその根拠を説明する機会をできるだけ多くの児童に保障する。 ・立式するだけでなく、式の意味を説明させたり、言葉の式で表現させたりする等、答えを求める過程を確認する時間を設ける。	
B 図形	平均正答率は68.5%で、全国平均と比べて12.3ポイント高い。 ○基本的な图形の描き方や角の性質についての問題の正答率は高い。 ●图形から必要な情報を選択して、式や言葉を使って説明することに課題が見られる。	・問題場面や複数の图形間の関係を正しく理解して面積を求めることができるような指導の充実を図る。 ・問われていることを正しく理解して、答えを求める過程を公式や言葉を用いて説明する機会を設ける。	
C 測定	平均正答率は70.0%で、全国平均と比べて15.2ポイント高い。 ○はかりの目盛りを正しく読む問題の正答率は高い。	・身近な生活に即した場面を用いて、生活経験と割合を結び付けながら捉えられるような問題提示の仕方を工夫する。	
C 変化と関係	平均正答率は66.9%で、全国平均と比べて9.4ポイント高い。 ●基準量の何倍かを割合で表す問題の正答率が低い。	・身近な生活に即した場面を用いて、生活経験と割合を結び付けながら捉えられるような問題提示の仕方を工夫する。 ・具体物や図、数直線を用いて、基準量の何倍に変化したのかを視覚的に捉えられるようにする。	
D データの活用	平均正答率は72.0%で、全国平均と比べて9.4ポイント高い。 ○円グラフや観点が2つある表から数値を読み取る問題の正答率は高い。 ●2つのグラフから、条件に合ったグラフを選択し、判断の根拠を明確にして説明する問題の正答率が低い。	・データのもつ特徴や傾向を把握するために、学び合いで自分の考えもったり、その妥当性を考察したりする時間を十分確保することで、課題に沿った問題解決力を育成する。 ・既習のグラフや表について、特徴や読み取り方等を繰り返し確認する。	

# 宇都宮市立泉が丘小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	55.6	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	56.7	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	62.9	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	73.9	67.9	66.7
観点	知識・技能	62.4	57.5	55.3
	思考・判断・表現	67.4	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点	
		○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は55.6%で、全国平均と比べて8.9ポイント高い。</p> <p>○電磁石を強くするためのコイルの巻き数の変え方について問う設問では、正答率が81.7%と高かった。</p> <p>●示された金属について、電気を通す性質や、磁石に引き付けられる性質を問う設問では正答率が16.7%と低かった。</p>	<p>・回路づくりについて実験を通して試行錯誤を繰り返しながら理解できるようにしていく。また、プリント学習やICTを活用して繰り返し学習内容を確かめられるようにしていく。</p>	
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は56.7%で、全国平均と比べて5.3ポイント高い。</p> <p>○海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ設問では、正答率が67.5%と高かった。</p> <p>●水の蒸発について、水が温度によって状態を変化させるという知識に関連付けて適切に説明しているものを選ぶ設問では、正答率が60.8%と全国平均を3.4%下回った。</p>	<p>・児童が興味関心をもって取り組めるような課題づくりをし、電気を通すものや磁石に引き付けられるものを実験を通して確かめられるように場の設定をする。また、児童の身近なものの材質に興味をもち、自ら進んで調べようとする意欲を高めるようにする。</p>	
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は62.9%で、全国平均と比べて10.9ポイント高い。</p> <p>○ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、「受粉」という言葉を記述する設問では、正答率が85.8%と高かった。</p> <p>●レタスの種子の発芽の結果を分析して、新たな問題を見い出す設問では、正答率が41.7%と低かった。</p>	<p>・条件を変えて実験・観察を進めていく方法や結果を整理して比較検討する方法などを理解し、それらをもとに実験・観察を通して発芽の条件を見つけ、課題に迫れるようにしていく。</p>	
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は73.9%で、全国平均と比べて7.2ポイント高い。</p> <p>○中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選択する設問では、正答率が90.0%と高かった。</p> <p>●水が陸から海へ流れいくことについて、水の行方と関連付けて選択する設問では、正答率が60.8%と他の設問より低かった。</p>	<p>・日頃から自然や環境問題に関心をもてるような言葉かけや環境づくり、話題提示等を行うとともに、既習の内容と結び付けて課題を捉えられるようにする。</p>	

# 宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年 児童質問紙

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」についての肯定割合が94%、「朝食を毎日食べていますか」についての肯定割合が96%、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」についての肯定割合が87%であった。いずれも、全国の肯定割合を上回っており、毎日規則正しい生活習慣が身に付いている児童が多いと考えられる。今後も家庭と連携を取り合い、基本的な生活習慣が身に付くよう指導していきたい。

○「学校に行くのは楽しいと感じますか」についての肯定割合が94%で、全国の肯定割合と比べて7.9ポイント高い。今後も児童の様子をよく見守ることで、友達関係の変化やいじめの兆候、児童の困り感などを察知し、どの児童も学校に行くのが楽しいと思えるように、さらなる支援を続けていきたい。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」の肯定割合が93%、「友達関係に満足していますか」の肯定割合が96%と、いずれも90%を上回っている。互いを思いやる気持ちが育ち、良好な友達関係のもと生活していると考えられる。今後も学級経営を通して、一人一人のよさを認め合えるように指導していきたい。

○「国語の勉強は得意ですか」の肯定割合が65%で、全国の肯定割合と比べて4ポイント高い。また、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の肯定割合が95%であった。国語の学習に対して前向きに取り組んでいることが考えられる。今後も児童が学習内容を十分に理解し、進んで学習に取り組むことができるよう、日々の授業改善を行っていきたい。

○「算数の勉強は好きですか」の肯定割合が65%で、全国の肯定割合と比べて6ポイント高い。具体的な操作を伴う活動や、協働的に問題解決を行う活動を設定することで「わかる授業」を展開し、より前向きな気持ちで学習を行うことができるようにする。また、習熟度別学習を取り入れ、自信をもって学習に取り組むことができるようとする。

●「将来の夢や目標をもっていますか」についての肯定割合が83%であった。総合的な学習の時間や道徳の時間の中で、将来の夢や目標が明確になるように指導していきたい。

●「理科の勉強は好きですか」についての肯定割合が84%と高い一方、「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問をもったり問題を見いたしたりしていますか」の肯定割合が60%と低い。発問を工夫したり、教材研究を行ったりして、普段の生活と理科とのつながりを見いだすことができるよう指導していきたい。

## 宇都宮市立泉が丘小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを書く活動の充実	つなぎ言葉を効果的に使った段落構成の指導や自分の考えを文章で表現する機会を増やすことで、書くことへの抵抗感の軽減と書く力の育成を図っている。	3教科すべてで記述式問題の正答率が、全国・県平均ともに上回った。しかしながら、選択式の問題と比較すると記述式の正答率がやや低いことから、今後も授業や生活の中で書く活動を積極的に取り入れ、指導を継続していく必要がある。
自分の考えを根拠をもって説明する活動の充実	授業の中で根拠を明確にして自分の考えを表現し合うことを通して、児童同士が学び合い、思考力が深まるように指導している。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりすることができますか」についての肯定割合が、86.2%で全国と比べて高い。授業の中で、学習形態を工夫した学び合う時間が、児童の新たな気付きとなり、深い学びにつながっていると考える。今後も、児童同士での学び合いを取り入れた授業を展開していきたい。